

私は今回の講義を聴き、また頂いたプリントに載っていた資料を読みましたが、率直に言ってまだ「私自身ができそうな被災地の農業再生」が何であるか思い至っていません。なので、先生のように自分が何を思って東京大学に来て農学部に進学したか、また大学で何をやってきたか振り返り、その過程で自分にできることを思いつければという気持ちでレポートを書き始めます。

私は一浪して東京大学理科二類に入学しました。元々中学生の頃から将来は創薬に携わりたいと思っていて、東大の薬学部に行けば最先端の知識を得て研究ができるだろうと考えていました。大学に入ってから講義では特に化学系の講義が面白いと感じました。原子の電子の動きなどから物質の性質を考え、推定していくことが出来るということが興味深く、このような分野では数学や物理学も一緒に学んでいくのが良いのではないかと思います。一方で、まだ創薬をしたいという気持ちもありましたし、酵素やタンパク質なども高校時代から好きで捨てがたいと思っていました。そんな中で進学振り分けにあたり他に工学部や理学部なども考えましたが、最終的には化学と生物学を工学的手法を用いて学ぶことができ、特に好きな酵素やタンパク質に関する研究をしている研究室も多く、また製薬会社に就職している人も多い農学部生命化学・工学専修に進学を決めました。

農学部に進学してからの2年冬学期の授業は、進学前に考えていたよりも農業に関する授業が多く驚きました。考えてみれば農学部なのだから当たり前なのですが、いわゆるバイオテクノロジーのイメージにあるような、研究室の中でシャーレや試験管を使って実験するための基礎を学ぶのだと思っていたので当初は戸惑いました。しかし、実際に授業を受けてみると今まで知らなかった作物の構成成分や農村の実態、放射線と農業の関係や世界の土壌の性質と組成に至るまで幅広く学ぶことが出来て新鮮でした。現時点で特に面白いと感じているのは有機化学と環境土壌学で、土の中に何億もの微生物が生きることや土の組成の違いで生育に適する作物が違うことなどが、まだ実感としてははっきりとつかめていないですがとても気になります。3年生以降の授業と実験を通じさらに自分の興味をはっきりさせていければと思っています。

また、大学に入ってからはずっとサークル活動に没頭してきました。私は東京大学奇術愛好会に所属しています。クラスのオリエンテーション合宿で上のクラスの先輩にマジックをみせてもらい感動したことがきっかけで入ったのですが、昔は休みの日には家でゆっくり寝ていたいと思っていた自分が、今では日曜日は早起きをして一日中ステージマジックの練習をして、夏休みも全て9月末の学外発表会の練習に捧げたくらいにのめりこんでいます。不思議さや見せ方を研究していくことも面白いですし、同期や先輩・後輩と意見を交換し、お互いに高めあっていけるというのも大学のサークル活動として大きな魅力だと思っています。そしてここで得た長く一つの問題に向き合う力や他者との交渉力、また多彩な分野を学ぶ知り合いは間違いなく自分の一生の宝となると確信しています。

ここまで書いてきたこと、また先生が授業でおっしゃっていた、自分の興味を突き詰めていけばいずれ社会とつながるときが来るというお話から、私はまずは農学部で授業をしかりと受けて学び、幅広く知識をつけるとともに自分が納得のいく興味を持てる研究対象を見つけることが大切なのではないかと思いました。また、単純に私が楽しいというのがありますが、先生が福島の地元の人々と本気で向き合いつなげたことが重要だったと講義資料にお書きになっていたのと同じように、サークル活動も人との関わりという点でも大事なものだと思うので、これからも続けていきたいと思います。そして、先生の講義資料を読んで、先生は自分の研究においても東日本大震災後の対応についても迅速に思い切って行動に出ていらしたと感じたので、私も気になる物事には怖がらず積極的に関わっていくようになりたいと思いました。以前、東大を通じて福島や岩手に週末に子供たちに勉強を教えるボランティアに行くことが出来るということを調べていて知ったのですが、1、2、3月はほぼ授業もないので思い切って参加してみたいと思いました。

さて、「私自身ができそうな被災地の農業再生」ですが、今の自分にいきなり大きなことはできないと思うので、まずは被災地の農作物を買って食べることから始めていきたいです。そして、農学部で積極的に学び、近い将来自分の研究を通じて被災地の農業再生に貢献できればと思います。また、もちろん自分で信用に足る人間になることも大切で必要なことですが、唯一、東京大学農学部の学生であるという今の自分の身分は世間的には農業や風評被害について話すときに若干の説得力を持つと思うので、この放射線環境学の授業や他の農学部の授業で得た正確な知識を積極的に周りの人にも伝えていきたいと思います。